

目的 近年、日本の経済活動の流れは、循環型社会の構築に向かって各分野において様々な取り組みが行われているが、依然として大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会システムが現存しており、廃棄物の量は増大し、その内容は益々多様化してきている。廃棄物の排出量増加に対する対応は、残余容量及び残余年数が有限である最終処分場にとって最優先課題である。又、これらの経済活動の現状に伴い、環境負荷は資源採取から廃棄に至る各プロセスで増加しつつある。環境負荷を軽減させていく手段のひとつとして、廃棄物の排出抑制が最も重要であるが、排出されたものを資源として適正な方法で有効活用することも必要である。本研究では、資源としての一般廃棄物の有効活用への取り組みとそれを支える制度の有効性を把握するため、一般廃棄物の回収方法及びそれらの再資源化の現状について、調査、分析し、今後の課題についても検討した。

方法 一般廃棄物関連の報告書、インターネットの官公庁及び団体等のホームページより得られた情報及び資料を供試料とし、一般廃棄物の分別・回収システムの現状把握及び再資源化への取り組みについて分析した。

結果 一般廃棄物の全国平均リサイクル率は1997年11.0%と少なく、また多くの市区町村は資源分別回収量は開示しているがそのリサイクル率の開示については消極的である。